

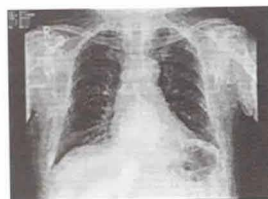
### 33 顔面蜂窩織炎・丹毒から敗血症、横紋筋融解症、急性腎不全を呈した一例

慈泉会相澤病院透析腎不全センター

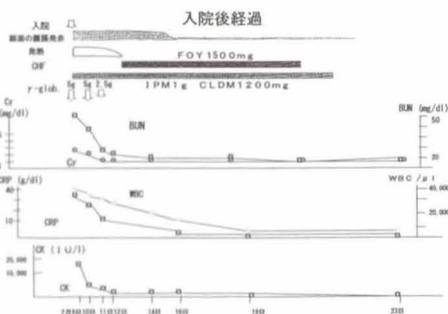
平田聖文 塚田 渉 小口智雅 神應 裕

症 例 : 69歳男性  
 主 訴 : 発熱 顔面腫脹  
 既往歴 : 高血圧症 糖尿病 副鼻腔炎  
 猫を4匹飼っている。  
 家族歴 : 特記事項なし。  
 現病歴 : 平成16年2月2日に感冒症状あり。2月3日より顔面腫脹が出現した。2月6日39度の発熱が出現し、顔面腫脹が増悪したため近医受診した。顔面蜂窩織炎と診断され、当院紹介され入院となった。

入院時胸部レントゲン



入院時身体所見 :  
 意識清明。  
 血圧 122/85mmHg、脈拍 132/分、整。  
 体温 38.6℃、表在リンパ節を触知せず、眼瞼結膜に貧血を認めず。  
 胸部 : 呼吸音正常、ラ音を聴取せず、心音正常、心雑音を聴取せず。  
 腹部 : 平坦、軟、肝脾触知せず。  
 四肢 : 浮腫を認めず。顔面から頭部全体に腫脹発赤を認める。左眼瞼が著明に腫脹し、膿付着を認める。  
 神経学的所見 : 異常を認めず。



入院時顔面写真



入院後経過 : 抗生剤イミペネム、クリンダマイシンの投与を開始した。第二病日CRP定量 22.6 と低下した。PT 15.7秒 APTT 47.1秒 AT-III 57% FDP 11.49の所見であり、凝固因子の不足に対し、FFP 6単位の投与を行った。第三病日CK 2342と低下した。BUN 26.0 Cr 1.1と腎機能の改善がみられた。CRP定量 9.8と低下した。以後炎症反応は治療により改善した。またPT 14.4秒 APTT 45.1秒 AT-III 72% FDP 9.70と凝固系の改善がみられ、DICも改善傾向と考えられた。第四病日CK 603まで低下した。腎機能も正常化し、CHF解除した。2月21日第十一病日まで抗生剤の投与を行った。顔面の腫脹発赤は改善した。

入院時検査所見

尿検査	凝固	生化学
Protein 1+	T T 89 %	TP 7.0 g/dl
Occult blood 3+	PT 14.6 秒	Alb 2.6 g/dl
RBC 100/HPF	APTT 34.6 秒	T.Bil 0.7 mg/dl
WBC 10/HPF	Fibrino. 1063 mg/dl	GOT 242 IU/l
Cast +	AT-III 70 %	GPT 126 IU/l
尿中β2microglobulin 10400 μg/l	FDP 19.77 μg/ml	LDH 590 IU/l
		γ-GTP 44 IU/l
		CK 1722 IU/l
		BUN 51.9 mg/dl
		Cr 2.3 mg/dl
		UA 12.6 mg/dl
		Na 130 mEq/l
		K 4.3 mEq/l
		Cl 93 mEq/l
		Ca 8.1 mg/dl
		P 2.1 mg/dl
血算	血清	
WBC 42450 /μl	CRP 35.9 mg/dl	
Neutro 93.4 %	myoglobin 460 ng/ml	
RBC 2.9 万 /μl	Aldolase 13.1 IU/l	
Hb 0.0 g/dl	人群β溶連菌抗原 -	
Ht 3.6 %		
Pr 465 万 /μl		

治療後顔面写真



### まとめ

- (1) 顔面蜂窩織炎・丹毒から敗血症、横紋筋融解症、急性腎不全、DICを呈した一例を経験した。
- (2) 顔面蜂窩織炎に対し抗生剤の投与を行い、敗血症、横紋筋融解症、急性腎不全に対して持続血液濾過を施行した。治療によりこれらの病態および、顔面の皮膚所見は改善した。